

## Tokai-EDGE (Tongali) プログラム

(実施期間：平成 29～令和 3 年度)

実施機関：主幹機関—名古屋大学（総括責任者：佐宗 章弘）

協働機関—岐阜大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学

## 採択プログラムの概要

東海地区の産学が連携して、自らのアイデアや技術で、世の中に大変革をもたらそうとチャレンジする人材、専門分野における基礎能力と鋭利なマインドセットを基盤として併せ持ち、イノベーションをリードするアクションを起こす人材を育成することを目的とする。

現在まで東海地区産学連携大学コンソーシアムが母体となり実施してきた Tongali スクールを拡大する形で、体系的な教育システムを構築する。コースワークとしては、『モチベーション』『マインドセット、スキルセット』『起業実践』『産学連携・オープンイノベーション』『グローバル展開』を実施し、教育と社会実装の両者が実行できる場を提供し、多くの参加者を募り、起業等やる気のある学生には、しっかり育成・支援ができるプログラムを提供する。

これらの教育プログラムを核とし、サステナブルなプラットフォームとなるベンチャー・エコシステムを、東海地区に構築していく。

## (1) 評価結果

総合評価	I. 進捗状況 (中間評価)	II. 取組状況	III. 計画・改善 手法の妥当性	IV. 今後の見通し
S	S	S	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

## (2) 評価コメント

ステップごとに受講者を選別し、受講者のレベルにあった適切なプログラムでの指導が行われている。各機関の特徴が活かされ、効果的に機能している点は高く評価できる。受講者の数や、Tongali を卒業した起業家の質、レベルの高いピッチ大会での受賞歴など、今後も起業家輩出の期待が大いにもてる。大学間の連携が取れており、自走に向けた準備も適切である。小学生・中学生・高校生向けの教育に、起業したベンチャーが参加できるとすばらしい。中京地区の県・主要市、企業・経済界等、さらに海外大学との連携が強化され、学生や若手研究者が、自らのアイデアや技術シーズを基に起業や社会実装することを支援する教育プログラムが整備されている。受講者の多くは名古屋大学に集まっているものの、その勢いを上手く利用して各大学が弾みを付けていると評価できる。地域のユニークさが出ていて、進捗管理もしっかりしている。

**I. 進捗状況（中間評価）：**プログラムの参加者数、資金手当て、起業数など、おしなべて所期の目標を上回り、高く評価できる。エコシステムが非常にうまく形成されていると認められる。特に、Tongali を卒業し、シリーズ A ラウンドを終えた学生ベンチャーとのミートアップや、学生からも身近に感じてもらえるような仕組みが多数あり、高く評価できる。体系的な教育プログラムの構築と実践・拡大および地域ものづくり企業との連携を強みとして世界トップを目指している。ベンチャー・エコシステム形成について、名古屋を中心とした自治体・経済団体等が積極的に取り組むように変化してきており、東海一帯に拡大するまでに外部環境が整いつつある。各大学のプログラム及び共通プログラムに参加した受講希望者から本気で事業化したい学生に絞った上位スクールへの誘導など、受講者が自ら決める工夫がなされている。東海ならではの地元企業との取組がユニークである。

**II. 取組状況成果：**コンソーシアム内での共通プログラム、5 大学個々のプログラムなどをウェブ上で共有し、大学のプログラムだけでなく、行政や企業の実施するプログラム等の周知においても相互協力が行われている。また、起業までのファンド等準備資金が創設されており支援体制が整備されている。外部資金の獲得について、名古屋大学をはじめとした各大学において、大学基金の中に「アントレプレナーシップ教育」などの個別の基金を作り、個人からも寄付を集めやすくしている点は、他大学でも導入すべきであり、高く評価できる。5 大学による起業家教育プログラム委員会を設置し各機関において全学的に取り組んでいる。海外ピッチイベント参加前には、仮説検証プログラム研修に加え、参加効果を最大限発揮できるようにメンターによる壁打ちが繰り返されている。この効果が、起業に繋がり、学生ベンチャー創設数が 20 社を超えている点は高く評価できる。

**III. 計画・改善手法の妥当性：**計画と比較し、受講者数や外部資金の獲得は上回っており、自立化に向けて、十分な外部資金導入ができています。5 大学で同一メニューを揃え支援する寄付企業の拡大に努めている。また、各大学には、大学基金を作り、個人からも寄付がしやすい環境を整えている。企業の協力機関・寄付企業に対して、毎年実績報告を行い、評価を受けることで PDCA に繋げている。学生が受講しやすいように Tongali スクールにおけるプログラムの順序や内容を変更し、かつ外部機関の有識者の意見も取り入れて改良を図っている。外部メンターの活用効果が功を奏していると認められる。一方で、起業事例において研究成果の事業化が少ない。教職員のマインド醸成と自らの起業促進も必要ではないか。

**IV. 今後の見通し：**事業期間内の目標達成は十分に見込めると認められる。地元企業（特に製造業）との協働推進が鍵を握るので、積極的な働きかけを期待したい。起業家マインドの醸成は教育のみならず、周りに起業家がいるか、成功者がいるか、そういった空気が身近にあるかといった点が重要だと思われるが、Tongali ではビジネスプランコンテストをライブ会場で行いプレゼンテーションの演出をすることで、学生たちの「ここで発表したい」といった意欲を創りだしていくなど、エモーショナルな空気感を作っている点でも非常に評価できる。企業からの寄付獲得と、最長 12 年の 5 大学ファンドにより継続的な活動が可能となる見込みである。東海地域内外の他大学との連携も見込まれており、影響が広がりつつある。四国や新潟の複数大学からの連携相談を受けており、ものづくり地域の中京 5 大学から始まった価値創造プラットフォームが、日本のモデルになる可能性がある。主幹機関・協働機関以外の大学にもアントレプレナーシップ教育を広げ、産学官連携の価値創造プラットフォームの定着を進めることにより、東海地方のベンチャー・エコシステムの構築を促進し、大学発ベンチャー企業が多数、輩出されることを期待したい。